



新機能と更新情報

- [変更点 \(2 ページ\)](#)

変更点

次の表に、このマニュアルにおける新機能および変更された機能の要約、および各機能がサポートされているリリースを示します。ご使用のソフトウェアリリースで、この文書で説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、<https://tools.cisco.com/bugsearch/> の Bug Search Tool およびご使用のソフトウェア リリースのリリース ノートを参照してください。

表 1: インターフェイスの機能履歴

機能名	リリース	説明	参照先
インターフェイスとポートチャネル			
ポート ビーコン	8.4(1)	この機能は、Cisco N-Port Virtualizer (Cisco NPV) モードで動作している Cisco MDS スイッチでサポートされています。	インターフェイスの設定
ポート ビーコン	8.3(1)	この機能を使用すれば、データセンター環境内の個々のスイッチおよび直接接続されたピアポートを識別できます。	インターフェイスの設定
ポート ビーコン	8.4(1)	この機能は、Cisco NPV モードで動作している Cisco MDS スイッチでサポートされています。	インターフェイスの設定
ポート モニタ	8.4(1)	ポート モニターの syslog メッセージのロギング重大度レベルを構成するためのサポートが追加されました。	インターフェイスの設定
インターフェイス	8.4(1)	show logging onboard txwait コマンドの出力フォーマットを修正しました。	インターフェイスの設定

機能名	リリース	説明	参照先
ポート ビーコン	8.3(1)	この機能を使用すれば、データセンター環境内の個々のスイッチおよび直接接続されたピアポートを識別できます。	インターフェイスの設定
インターフェイスモード	8.1(1)	コアスイッチからCisco N-Port バーチャライザ (NPV) スイッチに接続するリンクは、インターフェイスおよびポートチャネルでISL (コアポート) として扱う必要があります。ポートモニターは、リンクがエッジポートとして扱われている場合、リンク上でポートガードアクションを実行する場合があります。その結果、Cisco NPV スイッチに接続されているデバイスへの接続が失われます。	インターフェイスの設定
ポート モニタ			
ポート モニター ポリシー	8.5(1)	credit-loss-reco、tx-credit-not-available、tx-slowport-oper-delay、およびtxwait カウンタ用に、新しいポートモニター ポートガードアクション (cong-isolate-recover) が導入されました。	

機能名	リリース	説明	参照先
ポート モニタ	8.1(1)	次のコマンドが変更されました。 <ul style="list-style-type: none"> • port-type {access-port trunks all} • logical-type {core edge all} 	
ポート モニター ポリシー	8.1(1)	credit-loss-reco、tx-credit-not-available、tx-slowport-oper-delay、および txwait カウンタ用に、新しいポートモニター ポートガードアクション (cong-isolate) が導入されました。	

表 2: インターフェイス バッファの機能履歴

機能名	リリース	説明	参照先
バッファ間クレジットの回復	8.4(1)	NP ポートのバッファ間クレジットの回復のサポート。	
バッファ間クレジットの回復	8.2(1)	F ポートのバッファ間クレジットの回復のサポート。	
拡張レシーバ レディ	8.1(1)	この機能が導入されました。 次のコマンドが導入されました。 <ul style="list-style-type: none"> • show flow-control er_rdy • switchport vl-credit • system fc flow-control er_rdy 	

表 3: 輻輳管理機能の履歴

機能名	リリース	説明	参照先
HBA 拡張レシーバ レディ	9.3(1)	FおよびNPポートのサポート が追加されました。HBA ER_RDY はプレビュー（ベータ） 状態であり、本番環境では使 用できません。	輻輳管理
DIRL NPV のサポ ート	9.3(1)	NPV モードのスイッチをサ ポートするように拡張されま した。	輻輳管理
ファブリック通知	9.2(1)	ファブリック通知 — FPIN お よび輻輳シグナル機能はプレ ビュー（ベータ）状態ではな く、実稼働環境で使用できま す。	輻輳管理
TxWait OBFL	9.2(1)	TxWait OBFL ファイルサイズ が 512 KB から 8 MB に増加し ました。	輻輳管理

機能名	リリース	説明	参照先
輻輳分離	8.5(1)	<p>この機能は、ファブリック パフォーマンス モニター (FPM) によって処理されるようになりました。</p> <p>次のコマンドが導入されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • feature fpm • fpm congested-device {exclude static} list • member pwwn <i>pwwn</i> vsan <i>id</i> [credit-stall] • fpm congested-device recover pwwn <i>pwwn</i> vsan <i>id</i> <p>次のコマンドは廃止されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • congestion-isolation {include exclude} pwwn <i>pwwn</i> vsan <i>vsan-id</i> • feature congestion-isolation • show congestion-isolation {exclude-list global-list ifindex-list include-list pmon-list remote-list status} • congestion-isolation remove interface <i>slot/port</i> 	輻輳管理

機能名	リリース	説明	参照先
輻輳分離と回復	8.5(1)	<p>輻輳分離と回復機能は、フローが低速であることが検出された後に優先度の低い VL に移動されたフローを、通常の VL に自動的に回復します。それにより、フローを回復します。</p> <p>次のコマンドが導入されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • feature fpm • fpm congested-device {exclude static} list • member pwn <i>pwn</i> vsan <i>id</i> [credit-stall] • fpm congested-device recover pwn <i>pwn</i> vsan <i>id</i> • port-monitor cong-isolation-recover {recovery-interval <i>seconds</i> isolate-duration <i>hours</i> num-occurrence <i>number</i>} <p>cong-isolate-recover port-guard アクションを追加するように、counter port monitor コマンドが変更されました。</p>	輻輳管理

機能名	リリース	説明	参照先
ファブリック通知	8.5(1)		輻輳管理

機能名	リリース	説明	参照先
		<p>ファブリック通知は、リンクの整合性の低下や輻輳など、IOの通常のフローに影響を与える状態や動作に影響を与えるパフォーマンスをエンドデバイスに通知するために使用されます。</p> <p>次のコマンドが導入されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • feature fpm • counter txwait warning-signal-threshold count1 alarm-signal-threshold count2 portguard congestion-signals • fpm congested-device {exclude static} list • member pwn pwn vsan id [credit-stall] • fpm congested-device recover pwn pwn vsan id • fpm fpin period seconds • fpm congestion-signal period seconds • show fpm {fpin registration {congestion-signal summary} congested-device database [exclude local remote static]} vsan id • port-monitor fpin {recovery-interval seconds isolate-duration hours num-occurrence number} <p>FPIN port-guard アクションを追加するように、counter port monitor コマンドが変更されま</p>	

機能名	リリース	説明	参照先
		した。	
ダイナミック入力 レート制限 (DIRL)	8.5(1)	<p>DIRLは、輻輳が発生しているスイッチポートを流れるトラフィックの量を自動的に制限するために使用されます。</p> <p>次のコマンドが導入されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • feature fpm • fpm dirl {exclude list reduction <i>percentage</i> recovery <i>percentage</i>} • member {fc4-feature target interface <i>fc slot/port</i>} • fpm dirl recover interface <i>fc slot/port</i> • show fpm {dirl exclude fpin <i>vsan id</i> ingress-rate-limit {events status} interface <i>fcslot/port</i>} • port-monitor dirl recovery-interval 秒 <p>DIRL port-guard アクションを追加するように、counter port monitor コマンドが変更されました。</p>	輻輳管理

機能名	リリース	説明	参照先
ファイバチャネルおよび Fibre Channel over Ethernet (FCoE)	8.4(1)	<p>次のコマンドが変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • show hardware internal rxwait-history [<i>module number</i> <i>port number</i>] コマンドは show interface [<i>interface-range</i>] rxwait-history に変更されました。 • show hardware internal txwait-history [<i>module number</i> <i>port number</i>] コマンドは show interface [<i>interface-range</i>] txwait-history に変更されました。 • show process creditmon txwait-history [<i>module number</i> [<i>port number</i>]] コマンドは show interface [<i>interface-range</i>] txwait-history に変更されました。 <p>次のコマンドの出力は変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • show interface <i>interface-range</i> aggregate-counters • show interface <i>interface-range</i> counters • show interface <i>interface-range</i> counters detailed • show interface priority-flow-control • show interface vfc <i>interface-range</i> counters detailed 	輻輳管理

機能名	リリース	説明	参照先
Fibre Channel over Ethernet (FCoE)	8.2(1)	新しい FCoE コマンドが導入され、ファイバチャネルで使用されるコマンドに合わせて一部の FCoE コマンドが変更されました。	輻輳管理
拡張レシーバレディ	8.1(1)	この機能により、サポートするスイッチ間のスイッチ間リンク (ISL) を4つの個別の仮想リンクに分割し、各仮想リンクに独自のバッファ間クレジットを割り当てることができます。 次のコマンドが導入されました。 <ul style="list-style-type: none"> • show flow-control {er_rdy r_rdy} [module number] • switchport vl-credit {default v10 value v11 value v12 value v13 value} • system fc flow-control {default er_rdy r_rdy} 	輻輳管理

機能名	リリース	説明	参照先
輻輳分離	8.1(1)	<p>この機能により、構成コマンドまたはポート モニターのいずれかによって、デバイスを低速として分類できます。</p> <p>次のコマンドが導入されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • congestion-isolation {include exclude} pwwn pwwn vsan vsan-id • feature congestion-isolation • show congestion-isolation {exclude-list global-list ifindex-list include-list pmon-list remote-list status} <p><i>cong-isolate</i> ポートガードアクションが次のコマンドに追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • counter credit-loss-reco • counter tx-credit-not-available • counter tx-slowport-oper-delay • counter tx-wait 	輻輳管理
ファイバチャネルの輻輳ドロップタイムアウト、クレジットなしフレームタイムアウト、および低速ポートモニタータイムアウト値	8.1(1)	<p>コアスイッチを Cisco NPV スイッチに接続するリンクは、ファイバチャネルの輻輳ドロップ、クレジット切れドロップ、およびスローポートモニターのしきい値を設定するために、ISL (コアポート) として扱う必要があります。以前は、コアポートは、輻輳ドロップまたはクレジット切れドロップモードの F 値で何らかの変更があると、その影響を受けました。</p>	輻輳管理

機能名	リリース	説明	参照先
低速ドレインデバイスの検出と輻輳回避	8.1(1)	<p>新しい輻輳分離機能は、ポートモニターまたは手動構成を介して低速ドレインデバイスを検出し、ISL上で正常に動作している他のデバイスから分離できます。低速ドレインデバイスへのトラフィックを分離してしまえば、正常に動作している残りのデバイスへのトラフィックは影響を受けません。トラフィックの分離は、次の3つの機能によって実現されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 拡張レシーバ準備完了 2. 輻輳分離 3. ポートモニター 輻輳分離のためのポートガードアクション 	輻輳管理

表 4: ポートチャネルの機能履歴

機能名	リリース	説明	参照先
ポートチャネル	8.4(1)	デフォルトのポートチャネルモードが「オン」から「アクティブ」モードに変更されました。	

表 5: Nポート識別子の仮想化の機能履歴

機能名	リリース	説明	参照先
Nポート仮想化 (NPV) ロードバ ランシング	8.5(1)	NPV ロード バランシング ス キームが拡張され、スルー プット値に基づいて外部イン ターフェイスへのサーバー イ ンターフェイスのマッピング が提案されて、トラフィック が外部インターフェイスに均 等に分散されるようになりました。 次のコマンドが導入されまし た。 <ul style="list-style-type: none"> • show npv traffic-map proposed • npv traffic-map analysis clear 	
Nポート ID 仮想化	8.4(2)	NPIV 機能はデフォルトで有効 になっています。	
NP ポート	8.4(1)	NP ポートで許可されたバッ ファ間の状態変更通知 (BBSCN)	

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。